

春日神社



もくじ

宮司挨拶
祭典ごよみ
天皇皇后両陛下御来県
大東亜戦争 終戦七十年
特別寄稿 参議院議員 山谷えり子
春日神社研修旅行に参加して
全国敬神婦人連合会 青森大会
ブライダルのご案内／表彰
初詣のご案内／厄祓いのご案内

社報 春日神社

新年号(第二十四号)

発行日 平成28年1月1日
発行者 〒870-0031
大分市勢家町4-6-87
春日神社 宮司 宮本隆之
TEL 097-532-5638
題字 東郷平八郎

年頭のご挨拶

宮司 宮本 隆之

新春を迎え、謹んで皇室の弥栄と国家の平安、そして皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

さて昨年は、大東亜戦争終結七十年の節目の年にあたり、全国各地であらためて戦没者に対して慰霊と感謝の誠を捧げるべく様々な追悼行事が行われました。当社では秋の大祭に併せて、多数の参列者の中、境内忠魂碑前に於いて慰霊祭を斎行致しました。

県神社庁の活動と致しましても、まず夏の合同研修会で県内戦没者の慰霊祭を、また十一月には沖縄県糸満市米須霊域に鎮まる「大分の塔」前にて、沖縄戦で亡くなられた県内出身者の慰霊祭を斎行致しました。あらためて、現世に生かされている私たちが安寧に日々を過ごして行ける有難さと幸せを感じつつ、先人への感謝の気持ちに胸が熱くなる思いでありました。

各地で追悼と平和を祈念する中、わが国は安全保障関連法案を制定致しました。戦争法案などと捉える向きもありますが、戦後七十年の時を経て世界情勢は大きく変わり、国連加盟の一国として日本周辺海域を含め東アジアの安全に関する配慮の必要性は非常に高まっています。日米同盟を始め近隣諸国との協調を図りつつ、あらゆる事態を想定した上で、それに対する備えと活動を行うための法整備が求められているのです。その中で安倍総理から今後日本の安全は日本自身が守るという体制を整えていくことが示されました。まさに今回の制定はその第一歩になるものです。国際関係においても各国の安全と繁栄の貢献に繋がる判断であったと言えるでしょう。

天皇陛下におかれましては、日毎に国と国民の平安をご祈念されておられます。その大御心を戴きつつ当社からも、本年が大きな災害のなく、皆々様には心豊かで穏やかなる日々を送られますことを心よりお祈り申し上げ、年頭のご挨拶と致します。

祭典ごよみ

年末から春にかけて執り行われる恒例祭です。

十二月二十三日 天長祭

天皇陛下の誕生日をお祝いする祭典です。巫女舞「豊栄舞」を奉納します。

十二月三十一日 大祓式・除夜祭

一年間を締めくくり、罪穢れを祓って清々しく新年を迎えるための祭典です。

一月 一日 歳旦祭

元旦にあたり、皇室の弥栄と国家の繁栄、氏子崇敬者の幸せをお祈りします。

二月 六日 初午祭（撰社 稻荷神社）

本殿の西側に鎮座するお稲荷さんの例祭です。

二月十一日 紀元祭

日本の国の誕生を祝う祭典です。雅楽の伴奏で国歌を斉唱します。

二月十七日 祈年祭

本来は農耕儀礼に基づくお祭りですが、今日では稲作のみならず殖産工業すべてに亘って、この一年間の恵みを願う祭典です。

四月十二日 春季大祭宵祭

春の大祭のうち、前日祭です。二日間にわたる庄内神楽が奉納されます。

四月十三日 例祭

神社で一番重要な祭典です。神社本庁からの献幣使を迎えて執り行われます。

四月二十九日 昭和祭

昭和天皇の御誕生日にあたり、御聖徳を仰ぐ祭典です。

五月 一日 撰社金比羅社祭

本殿東側に鎮座するこんぴらさんの例祭です。



天皇皇后両陛下御来県

天皇皇后両陛下には、障害者福祉施設『太陽の家』の創立五十周年式典に御臨席のため、平成二十年の大分国体以来七年ぶりとなる本県への行幸啓となりました。『太陽の家』は、パラリンピックの父と呼ばれる創立者中村裕先生の「保護よりも、機会を」という理念の下に、障害者の職業の場として、更には障害者スポーツの拠点として、社会に大きく貢献してきた施設です。両陛下にはとりわけ福祉にお心をお寄せ下さることから、今回の御訪問と相成りました。

十月三日、本年開館したばかりの大分県立美術館の御見学に合わせ、この美術館と宿泊先のオアシスタワーホテル周辺を重点的に、数多くの県民による両陛下の御奉迎が行われました。県内神職とともに当社からも神職巫女が参集の皆さんへ用意した日の丸の小旗を配布し、横断幕を広げて両陛下の御到着を今か今かと待ちます。そして先導車輛に続いて両陛下の御料車が御着きになると一斉に日の丸が振られ、両陛下はこやかに応え下さいました。

明くる十月四日には『太陽の家』創立五十周年式典に御臨席があり、その後、空路にて御還幸なされました。

常に民安かれとの大御心と、沿道各地で国旗を振ってお迎えする数千人の県民の姿は、変わることに無い美しい日本を象徴する景色です。今回の行幸啓も誠に有難く、喜びに堪えない貴重なひと時となりました。

新年のご挨拶



参議院議員・前国務大臣
神道政治連盟国会議員懇談会副幹事長

山谷 えり子

皇紀二千六百七十六年、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

新年を迎えるにあたり、五穀豊穰、天下泰平、国土安穩、万民豊樂を祈ります。

昨年は、戦後七十年という大きな節目を迎えた年でしたが、丙申（ひのえさる）の本年は、『果実が成熟していき、つまっていく状態』で、これまでの成果が結実していく年といわれています。

六十年前となる丙申の昭和三十一年は、日本は神武景氣と言われた時期で、日本が国際連合に加入、また横浜市・名古屋市・京都市・大阪市・神戸市の五市が初の政令指定都市となり、経済白書には「もはや戦後ではない」と記載されるなど、戦後の復興が改めて明確に示された年でもありました。

昨秋十月七日まで第七十四代国家公安委員会委員長の任に当たっており、警察の「察」は、「人の心を察する」の「察」、わが国の警察の皆さんが日々徹底的に人々の幸せに昼夜を分かたず献身的に務めてくださっており、胸が熱くなること度々でございました。

あらためて、『義』について思いをいたしていると、奇しくも本年は、ナチスの手からユダヤ人を救った『命のビザ』で有名な杉原千畝の没後三十年にあたります。

ナチス・ドイツに占領されたポーランドではユダヤ人狩りが行われ、大量虐殺など、迫害から逃れるために日本を通過するビザの発行を求め、杉原が領事代理として赴任していたリトアニアの日本領事館には多くのユダ

ヤ人が群れをなしました。杉原は、寝食を忘れ、ビザを発行し続けました。杉原は、「苦慮のあげく、私はついに人道主義、博愛精神第一という結論を得ました」と述べています。

こうして約六千人ともいわれるユダヤ人が、日本で最初に上陸した場所が私の故郷である福井県の敦賀港でした。

「妻が日本海の海上で赤ん坊を産んだ。日本の警官も医師も親切だ。予想もせぬ厚意に満ちた日本の取り扱い、美しい風景、女中はニコニコと氷やパン、ミルクを買ってくれた。このおかげで妻は命拾いをした」

「花にあふれた小さな家屋が立ち並ぶ美しい街並みで、大変礼儀正しい人たちの住んでいる、おとぎの国のようなところ、これが敦賀の第一印象だった」

この他にも、コートやハンドバッグをなくし諦めていたが、その日うちに交番に届けられていたり、子供が迷えば必ず誰かが送り届けてくれたりと、日本人に親切にしてもらったことを口々に語っています。

学校では先生が子供たちに、「親切にしましょう」と教え、果物屋さんやリンゴやバナナを配り、奥さんたちはおむすびを作って配り、銭湯の「朝日湯」が浴場を無料で提供し、時計屋さん靴屋さんも無料で修繕サービスをするなど、疲れと餓えの中にあつた人々をもてなしたエピソードが残されています。

敦賀は、人道の港、天国だったという声を、私は故郷の一人として大切にしています。

日本人の「思いやり」「献身」といった国民性は、現在も世界から高く評価されているところです。悠久の歴史の中で紡がれてきた日本人の心、国柄だと思います。

単に、物質的、経済的な成長だけに目を向けるのではなく、心も成熟していける年となるように切に願っています。

国家の安寧と皆様のご多幸を心より祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

大東亜戦争終戦七十年

春日公園内忠魂碑前にて慰霊祭を斎行



昭和十二年に始まった大東亜戦争が終戦を迎えた日から、早や七十年の歳月が過ぎ去りました。わが国においては、最愛の家族の幸せを案じ祖国の繁栄を願いながら、遠い戦地及び本土の空襲等によりお亡くなりになった方々は三百十万人に及びます。ここ大分市も空襲を受け、市街地のほとんどを焼失し、当社も社殿・神宝類はみな悉く戦火に失しました。

この筆舌に尽くしがたい苦難の時代、悲しくも勇ましく戦死された方々を追悼し感謝の誠を捧げるとして、当社秋季大祭の初日にあたる十月十八日の午後三時より、澄み渡る秋空の下に終戦七十年戦没者の慰霊祭・平和祈念祭を斎行致しました。

この忠魂碑は昭和四年（一九二九）、大分県在郷軍人会並びに県民の奉賛によって建設、昭和三十二年（一九五七）に市民の賛助により修復されたもので、日清日露戦争・済南上海事変・大東亜戦争にて戦死された英霊をお祀りしたものです。

本慰霊祭には大分縣護國神社から小野宮司様のご参列と、特別に同社仕女による「みたまなごめの舞」のご奉仕を頂き、宮司以下総代・地元関係者多数の皆様とともに英霊の御魂を追悼申し上げます。

過去の悲惨な戦争の教訓を風化させることなく、次世代に平和の尊さを語り継ぐことがより一層求められております。この節目を迎えての慰霊祭は戦没者の方々ととどまらず、その壮絶な時代を生き、また戦後には世界が平和になるように努力を続けてこられた方々に対しても、かけがえの無い家族や友人を失った深い悲しみに耐え、幾多の困難を乗り越えて復興を遂げてきた先人のご労苦に、改めて深く敬意を表するものとなりました。



春日神社研修旅行に参加して

春日神社 総代 難波 明信

十一月十七・十八日に行われた春日神社の研修旅行に、今回始めて参加させていただきました。宮本宮司を始め、総代・敬神婦人会・氏子青年会ほか総勢二十七名参加のもとに、本年度開通となった東九州道を利用して宮崎方面へ向かいました。

最初に参拝したのは日向一之宮の都農神社です。永友宮司様のご案内で先年改築なった素晴らしい社殿と、歴史を感じる旧社殿をご案内頂き、御祭神に関わる鼠の彫り物などのお話を伺いました。

午後から参拝した都萬神社では、旧職員で現在は帰郷してご奉仕している法元茂之さんに久しぶりの再会となりました。法元権祢宜の説明によると、神社のある西都市妻周辺には古墳が数多く点在して大変歴史のある地域であり、なるほど神話にゆかりの地ということがよくわかりました。私たちが参拝した翌日から例祭が始まるということで、祭りの雰囲気を感じさせた境内には、約二間四角に竹を立ち廻らせた「神楽場」というものが設置されており、大分では見ることのできないこの地方ならではの様子に、一同関心しきりでした。

二日目の宮崎神宮では、黒岩権宮司様から「八紘一字」の精神についてお聞きし、とても興味深く感じました。神宮にほど近い県立平和台公園内にある「八紘乃基柱」は、「八紘一字」の精神が世界に広がるようにとの意味が込められ、世界中から石を集めて作られていることや、来年在御祭神である神武天皇崩御二千六百年に当たることなど、神武天皇そして我が国の建国についての理解が深まりました。参拝後の車中では、来年の研修旅行では是非とも橿原神宮へ参拝したいという声が続きました。

あいにくの雨模様となった宮崎県内神社参拝でしたが、すべて印象深い内容でした。特に全島が熱帯・亜熱帯植物の群生地として国の特別天然記念物に指定された青島の青島神社「日向神話館」は日本発の蛭人形神話館で、天孫降臨から神武天皇による東征・大和平定までを三十体の蛭人形と十二の場面で再現された内容で、長友宮司様のご案内で神話の世界に引き込まれるものでした。

宮崎県は、県名にもあるように、由緒ある「宮・神社」の多さに驚きました。高速道路が南へ延びて、移動時間が大幅に短縮されたことで、近くて遠い県であった宮崎県との距離が縮み頻繁に行き来できるようになりました。これからも機会を見つけて多くの神社を参拝したいと感じました。



第六十六回全国敬神婦人大会青森大会 参加報告

春日神社敬神婦人会 会長 續 道子

去る十月六日、恒例の敬神婦人全国大会が本年は本州最北端の青森県にて開催された。

全国大会への当会からの参加は当初役員数人程度が通例であったが、ここ数年は会長を始め多くの会員が参加する行事となり、本年は大会と研修旅行も含んだ二泊三日の行程で十四名の会員の参加となった。

(また氏子青年会から宮本会長、角永氏、神社より妻垣権欄宜も同行し計十七名となる)

【第一日目】

大分空港より東京羽田空港を経由して半日かけて青森空港へと到着。昼食後、会場であるリンクステーションホール青森へと向かいました。

午後一時半の式典に先立ち、津軽三味線の清興がおこなわれ、「津軽じょんがら節」などを拝見しました。式典には全国から千人余りが出席し、北白川道久統理を始め、東北各県の神社庁長、青森県三村知事のご来賓をお迎えして進められました。また続いての議事には、平成二十六年年度会務報告、決算報告、平成二十七年年度の活動事業案や予算案等を協議し無事承認されました。

午後三時からは記念講演として、青森県知事令室の八戸短期大学客員教授の三村三千代先生「神話と日本の心」を拝聴いたしました。古事記・日本書記に記される神話において、神様も私たちと同様に成功と失敗を繰り返すお話など、とても楽しいものでした。また先生は土偶に関しても見識があり、土偶の多く

は女性がモデルとなっていることもお話下さいました。

【第二日目】

翌七日は、研修として青森県西部方面を巡りました。まず五所川原市の太宰治の生家である斜陽館や隣接する津軽三味線会館を見学。また同市の神明宮(齋藤麻毅宮司)に参拝。齋藤宮司様、欄宜様の心温まるおもてなしには大いに感激いたしました。

午後からは弘前市内を経由し、八甲田、奥入瀬溪流、十和田湖畔を散策。翌朝には十和田湖を遊覧船で渡り、色づく山々の紅葉を愛でました。

二泊三日の日程の中で、全国大会と様々な場所を巡る強行軍ではありましたが大変有意義な研修となりました。



ブライダルのご案内

これから結婚式、披露宴を考えているお二人へ。春日ウエディングでは、「心に残る」結婚式づくりそして、未来へつながる「心に残る」場所づくりのお手伝いをさせていただきます。神社での挙式や披露宴会場が気になったら、見学予約をして式場訪問してみてくださいね。

またブライダルフェアやワークショップなどの各種イベントも行っています。随時ホームページやフェイスブック上でもご案内をしていますので、そちらもご覧になってみてください。



表彰

当社役員総代に対して表彰が行われました。

◎神社本庁規定表彰

(二月三日付)

責任役員 丸尾 啓一郎

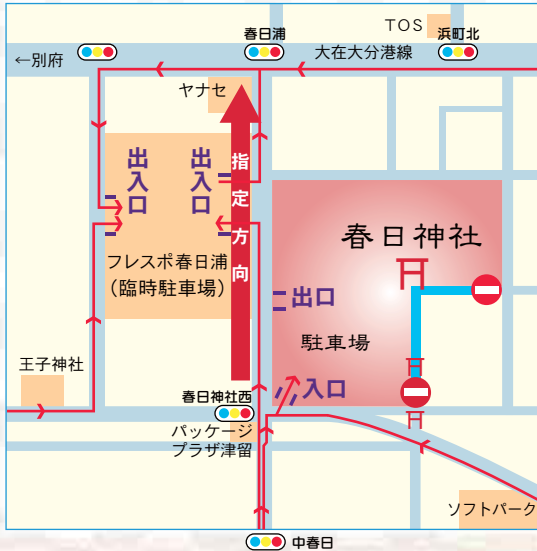
◎大分県神社庁大分支部

永年勤続表彰 総代勤続十年

(十月二十八日付)

総代 佐藤 浩三

初詣のご案内



国道10号線の中春日交差点から春日神社に向った場合、
右車線は春日公園内駐車場へ、
左車線はフレスポ春日浦駐車場への進行となります。

◎指定方向規制

12月31日午後11時より 1月1日午前5時まで
1月1日午前10時より 1月1日午後7時まで
1月2日午前10時より 1月2日午後7時まで
1月3日午前10時より 1月3日午後7時まで

◎指定車両以外進入禁止

12月31日午後9時より 1月7日午後3時まで

例年三が日の初詣参拝者は約三十万人を数えます。本年もこの多くの方々をお迎えするべく準備にかりました。熊手や福笹・干支土鈴など数多くの縁起物がある中、社務所内では神職巫女が手分けをして連日破魔矢の奉製作業を行っています。

駐車場は境内春日公園を開放するほか、隣接の「フレスポ春日浦」も利用できますが、大晦日から周辺の進入路について規制が行われますのでご注意ください。また、企業団体等の新年祈願祭について、電話にて事前予約をお受けしていますのでお気軽にお問い合わせ下さい。

厄祓いの ご案内

〈平成28年の厄年表〉※年齢は数え年

女 子					男 子				
37歳	34歳 (後厄)	33歳 (本厄)	32歳 (前厄)	19歳	61歳	43歳 (後厄)	42歳 (本厄)	41歳 (前厄)	25歳
	昭和55年生	昭和58年生	昭和59年生	昭和60年生	平成10年生	昭和31年生	昭和49年生	昭和50年生	昭和51年生

※ご祈願料はお一人様五〇〇〇円となります。
※男女の数え61歳は還暦のお祝いの歳にも当たります。
同窓会など団体での申し込みの場合は、社務所までお問い合わせください。

を担う時期にもあたります。厄年というのは現代の生活にもあてはまる人生の転回期であり、肉体的にも精神的にも調子を崩しやすい注意すべき時期とも言えるでしょう。謙虚に、感謝の心で神様に手を合わせ、神々のご加護で無事に過ごせるようお祈りください。神社ではいつでも厄祓いのご祈願を奉仕いたしております。

昔から日本では災難の起こりやすい年廻りとして、ある時期の年齢を「厄年」として忌み慎んできました。厄年というのは、一般的に男性が25歳・42歳・61歳、女性が19歳・33歳・37歳で、特に男性の42歳、女性の33歳は大厄と言われ、その前年を前厄、当年を本厄、翌年を後厄として前後3年間を特に忌み慎む慣わしとなっています。

この厄年の年齢は、社会的にも重要な役割を担う時期にもあたります。厄年というのは現代の生活にもあてはまる人生の転回期であり、肉体的にも精神的にも調子を崩しやすい注意すべき時期とも言えるでしょう。謙虚に、感謝の心で神様に手を合わせ、神々のご加護で無事に過ごせるようお祈りください。神社ではいつでも厄祓いのご祈願を奉仕いたしております。